

LA DOLCE VITA

海とイタリアをこよなく愛し、ワイン、アート、マリン文化に深い造詣を持つ伊藤英一氏。氏がこれまで体験してきた地中海のマリタイムの煌めきを中心に、海と食とボートに関わる彼らのライフスタイルを語る。

text & photo: Eiichi Ito

#27 スーパーヨットビルダー訪問

FIPAグループ

スーパーヨットビルダーのFIPAグループは、マイオーラ (Maiora)、ABYacht、CBInaviの3つの造船所を有するイタリア最大手のビルダーの一つである。マイオーラは70～140フィートのFRP艇を、ABYachtは58～145フィートのウォータージェット艇、CBInaviは100～165フィートのアルミ及びスチール艇と、それぞれ特徴あるスーパーヨットを世に送り出している。

1980年代の事、イタリア艇を購入しようと思ひ立ち、3つのビルダーに絞って検討し

タリアの土を踏んだ。リーバ (RIVA) とサンロレンツォ (SANLORENZO) そしてマイオーラ (MAIORA) だった。それぞれの造船所を巡り、どのビルダーも実際にその製造現場に接して大いに感激した事をつい先日の事のように思い出す。結局リーバに決めたのだが、マイオーラの事はずーっと気になっていた。

つい最近縁あってヴィアレージョ (Viareggio) とマッサ (Massa) のFIPA造船所とオフィスを訪問する機会に恵まれた。その当時は小さかった造船所が巨大な造船所に変貌していた事に驚くとともに、グイディッティ社長が一代で築いた大造船所グループのヒスト

リーに大いに興味を持ち、聞いてみた。

グイディッティ社長はさりりと「運が良かったのさ」と、他人事の様に答えた。大グループを率いる人物とは思えない気さくな社長で、苦勞を苦勞と思わないとてもポジティブな人物と聞いていたが、それなりの苦勞と努力はあったのだと思うのだが……。

60年代から70年代初頭にかけて、木造船からFRP船への移行時にいち早くFRP船に取り組み、クラフトマンの緻密な手仕事と卓越したデザインとで忽ちエンドユーザーの心を捉えたのだと、少しずつ語ってくれた。

ひと通り話が終わってランチに行こうという



FIPAグループの造船所は、かつての巨大な穀物工場を買い取って改装したという。大きなFIPAのロゴマークが入った当時の給水塔が遠くからでも見え、それがシンボルマークとなっている。正門を入ると低層の建屋に68フィートのABYachtの船体が乗っかっていたのには驚いた。



造船所内部に入ると、全長300mはあろうかという巨大な建屋に、生産途中の100フィートオーバーのスーパーヨットが数艇整然と並んでいた。型から取り外されたハルや内装中のハル、ウォータージェット取り付け間際の船体等々、作業員のキビキビした動きで造船所内は活気に溢れていた。

事になった。すると社長自らパンのハンドルを握り、スタッフと僕を乗せて近くのトラットリアに連れて行ってくれた。流石にトラットリアはなかなかの高級店で、魚介の様々な料理に舌つづみを打ったことは言うまでもないが、彼の飾らない人柄とスタッフからの大きな信頼がグループを大きくしていった事を、このランチを通して想像出来るのだった。

イタリアのスーパーヨット

世界に40とも50とも言われるスーパーヨットビルダーの約半数がイタリアのビルダーで占められている事は、日本ではあまり知られていない。世界のスーパーヨットビルダーtop20の1位から3位がイタリアンビルダーで、top20の内7つのビルダーがイタリアである。100フィートを超えるスーパーヨットがほんの

数える程しかない日本では、知る由も無いかも知れないが、僕自身、スーパーヨットに接すると、イタリア人の技術力、緻密さ、情熱、マーケティング力、遊び心、お洒落さなど学ぶべき事は多い。

ABYacht 造船所視察

造船所の街ヴィアレージョの少し北に位置し、純白の大理石カッターラ採掘場に近いマッサにFIPAの大造船所がある。訪問した時にはABYacht 116フィートと140フィート、マイオーラ106フィートと118フィート等を建造中であつた。巨大なウォータージェット3基を装着するハルを目の当たりにして驚く事しきり。このABYacht 118は、MTU16V 2600hp 3基及びウォータージェットMJP550の3基掛けで120トンのボディが最高速50ノットを叩き

出し、クルージングスピードも44ノットを誇る異次元のスーパーヨットである。イタリア人のスピード好きここに極まりと言え様な艇である。以前実際にこの艇に試乗した事があるのだが、40ノットオーバーでもグラスに入れたワインが一滴も溢れる事はなかった。

FIPAの造船所では全長300m近くもあろうかという建屋に、100フィートオーバーのスーパーヨットが何艇もそれぞれの工程で製造されているのを目の当たりにして、リーマンショック後の苦難のイタリアンビルダーの回復ぶりを肌で感じる事が出来た。PB.

Profile

伊藤英一

事業家。ボート歴は10代から既に半世紀以上。欧米の多くのリゾート地を訪れ、その土地の食やワイン、アート、音楽等に触れることを至上の喜びとしている。RIVAとRIBの熱烈な愛好家。